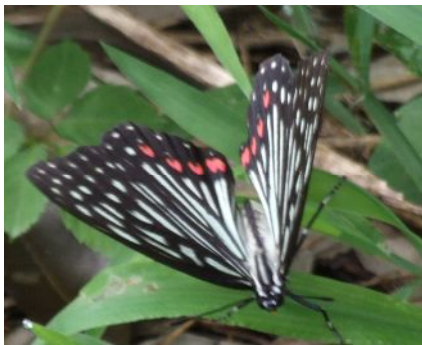




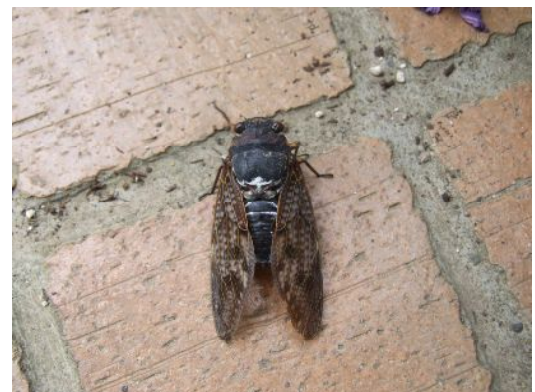
見慣れぬ蝶



夏休みも後半にさしかかった8月のある日、サツマイモ畑の様子を見に行った時のことです。見慣れない蝶がヒラヒラと飛んでいるのに気付き、あわてて撮影しました。それが左側に掲載した写真です。この蝶は、名前を「アカホシゴマダラ」といい、本来の生息地は、沖縄などの南方地域です。なぜ南の国の蝶が東中にいたのか？ひょっとしたら大発見かもしれないと考えて、専門家に問い合わせたところ、二つの可能性を指摘されました。一つは、南風に乗って遙か南より飛来したという可能性。二つ目は、人為的に持ち込まれた蝶が繁殖しているという可能性だそうです。特に、二つ目の可能性は、「自然本来の分布ではないので問題である」というお話しでした。最近話題になっている地球温暖化ですが、地球規模で気温上昇しているせいで、南方に生息している生物が、以前よりも北方まで分布を拡げている事実が指摘されています。南方の生物は色彩がきらびやかな種類も多く、身近に観察できることは楽しいのですが、地球温暖化のことを考えると複雑な思いもします。今回の出来事も、人類にとっても重大なメッセージを秘めているかもしれません。

声はすれども姿は見えず

夏休み中にセミの写真を撮影しようと頑張ったのですが、「声はすれども姿は見えず」といった具合で、鳴き声を頼りに見つけようとしたものの、なかなかその姿を確認できませんでした。やっと見つけても高いところに留まっていたりして撮影も難航しました。なんだか、子どもの頃の蝉採りを思い出してしまいました。「昔はもっと上手に採れたなあ」等と、少し悔しくも思いました。奮闘の結果はといえば、恥ずかしながらピンぼけ写真であったり、逆光で暗く写ってしまったりして苦戦のあげく、大半が失敗に終わってしまいました。今回掲載できたのは、偶然、非常階段に落ちていた「ヒグラシ」と、たくさん見かけた「アブラゼミ」2種類の写真のみという、寂しい結果になってしまいました。掲載した右上の写真が「ヒグラシ」、右下が「アブラゼミ」です。どうぞご覧下さい。



夏休み中の発行分について

21、22、24号は夏休み中の発行でした。通信を必要な方は、申し訳ありませんが、直接鈴木のところまで取りに来てください。印刷したものをお渡します。